中

殘燈奇譚安孔雀（ざんとうきだんつくえのくじゃく）

作者 山東京傳
絵師 小鄰碎友
板元 通油町蔦屋
三冊後編仕出し 仕出し

へ13
2946
70

2946
70

梵辭は梅なり。萬葉は菊なり。昔の草冊子は序なし。
勝間田の池は水なく、遊治郎の懐は金なきが如し。其
考る所序序や。序や。序や。序やべの序なり。小歌乃
流行せし頃草冊子は序といふあいたづまりにこそ。
後我輩不學とおわんさるいざる陳奮翰を
なぐ不呑込の和語とつくぬく庸人とおぐそこらいたりぬ。
唐山乃俗語とまじへ闇の夜は鉄炮あてこぬ。和
訓と附るこそ嗚呼おもき哉骨と折ておぐさ所が其おぐと
ゝ者ハ意味ゲスチ意味はるゝ者ハおぐとゝ
ゝの我思ひ入てゝものゝけたるでゝ。作者ハ不學ニ
桟敷の御見物半畳とぶらさるゝ。自己あるま針の療治とい

文化二年乙丑孟春

山東京傳戯誌

「えんかのあさまへ
そもふてんの
いうらいを
えんぶりゐみまへ
「ぬれしまであへの
いハおそしと
つゐむかうき
くるをまつ
要たふごのへ
りうこしごんごる
ためりるき
うんづよい
くんで
ぞゐる

書籍
書籍

ごのとろくよんごろーいきまるでん
ごきを
まるぐ
むんちさるく
いろまもいそ
きされ
ぎつくくの
そーまんて
うれーい
よ
むく
あんごの
ごんごめいき

九

十

下
世五月二日分
殘燈奇譚栄花燈
三冊 仮作 山東京傳
絵師 小鄕雄 放人
板元 通油町 蔦屋

京傳戯作
讀書處
一包代
賣所 江戸京傳店